

法政大学学術機関リポジトリ

HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2024-12-26

編集後記

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

能楽研究 : 能楽研究所紀要

(巻 / Volume)

26

(開始ページ / Start Page)

246

(終了ページ / End Page)

246

(発行年 / Year)

2002-03-30

〔編集後記〕

『能楽研究』第二十六号をお届けする。今号は、竹本幹夫所員「能作者宮増の作品と作風(上)」、岩崎雅彦所員「猿楽の説話と鬼」、表章前所長「大鼓金春流」考(下の二)」、橋本朝生所員「研究展望(平成11年)」、山中玲子所員「能界展望(平成12年)」、及び橋本所員による「古川文庫蔵書目録」(付能・狂言資料解題)を載せることができた(以上、縦組み)。竹本論文は不明な点の多い能作者宮増に迫る論。岩崎論文は先学とは違った視点から猿楽の説話と鬼との関係を考察したもの。表章前所長の論考は次号に続く。研究展望と能界展望も遅れを取り戻しつつある。橋本所員には、研究展望執筆と併せて狂言研究の先達で研究所創設以来の兼任所員であった古川久氏旧蔵の蔵書目録の作成を依頼、本号に掲載した。橋本所員の労を多とするとともに「古川文庫」の活用を願っている。そのほかの文庫についても、整理が進んだものから順次、目録を紀要等に掲載したいと考えている。

横組みの論考は、ハーバード大学教授ジェイ・ルービン氏の「風姿花伝の不思議な沈黙」と、西野「日本美術史家フリードリッヒ・ペルチンスキー研究(1)——吉田次郎訳『日本の仮面・能と狂言』を中心に——」の二本。ルービン教授には二〇〇〇年秋に大学院と共催した能楽セミナー『風姿花伝』六百年——世阿弥に学ぶ(全六講座)に講師の一人としてご出講いただいた。流暢な日本語による興味深いご講演で、紀要へのご寄稿をお願いした。ご多忙な中のご執筆に対し心か

ら御礼申し上げる。西野の論は日本も含め能面研究の先駆的業績を残したペルチンスキーの研究で、渴望していた吉田次郎氏による日本語の翻訳稿の紹介が中心。吉田氏のご高配に感謝申し上げます。

さて、今年、昭和二十五年(一九五〇)二月急逝した野上博士の学内外の功績を記念して、昭和二十七年(一九五二)四月に創設された能楽研究所の創立五十周年にあたる。新年度は、記念展示、記念出版、記念セミナー、記念能(新作能上演)などの記念行事が目白押しで、目下、諸準備を進めている。また、五十周年記念事業として新構想による『世阿弥全集』刊行の準備にも着手した。どうか、今後とも、皆様の変わらぬご支援を心からお願い申し上げます。(西野春雄)

二〇〇二年三月三十日 発行

能楽研究 第二十六号

102-8160 東京都千代田区富士見二一七—一

(TEL) 〇三三三三六四九八一五
(FAX) 〇三三三三六四九六〇七

編集兼 野上
発行者 記念 法政大学能楽研究所

所長 西野春雄

印刷所 三和印刷株式会社
長野市川中島町一八三—一